

令和6年9月11日

令和7年度予算編成方針

下関市長 前田晋太郎

本市においては、これまで子育て強力支援「For Kids For Future」を最重要施策として掲げ、子育て世帯を支援するため、学校給食費の支援や第2子以降の保育料無償化など、きめ細やかな子育て環境の整備を行ってまいりました。

また、本年4月には下関市立大学のデータサイエンス学部開校、8月にはJ:COMアリーナ下関がオープンと、「希望の街・下関」の実現に向け、これまで進めてきた未来投資が本格的に実り始めました。

令和7年度も引き続き、下関市立大学の看護学部開校、そして、火の山公園再編整備においては、展望デッキ、アスレチック、キャンプ場がオープン予定であり、魅力と活力にあふれ、賑わいに満ちた、下関の新たな景色が現れようとしています。

一方で、現在、世界的な原材料価格の上昇に端を発する物価高騰が続いており、市民の暮らしや企業の活動に大きな影響を及ぼしています。

また、少子高齢化や若者の市外流出、生産年齢人口の減少による人手不足など乗り越えなければならない課題がいまだ山積しています。

さらに、気候変動による異常気象の影響により、昨年、今年と続けて大規模な豪雨災害が発生しており、市民の安全を確保し、安心して暮らせるように災害に強いまちづくりは喫緊の課題となっています。

そのため、引き続き物価高騰対策や子育てしやすい環境整備、まちの魅力向上に取り組むとともに、脱炭素社会の推進や防災減災対策を進める必要があります。

令和7年度当初予算は、今年度末に市長選挙を控えていることから、義務的経費や継続事業を中心とした「骨格予算」として編成しますが、現在策定中の第3次総合計画に基づく施策を進めるため、10年後を見据え、施策の目標達成に向け、優先順位を整理し、貢献度の高い事業への重点化を図るとともに、これまで取り組んできた施策の蕾が美しい花を咲かせるよう次のステージに向かう予算としなければなりません。

本市の強みであるポートルース未来基金等の財源を有効に活用し、「わくわく感」と「あんしん感」を高め、市民が自分のまちとして誇りと愛着を持ち、住み続けたいと思う下関市の実現に向け、令和7年度当初予算編成を行っていきます。